

大学教育学会 第40回大会 筑波大学 2018年6月10日

# 卒業研究の研究 その3 学修成果との関連を中心に

JSPS科研費（課題番号：17K18606）  
発表資料は<http://rpuc.ihe.tohoku.ac.jp>から入手できます

© Takeshi KUSHIMOTO  
IEHE/CIR @ Tohoku Univ.

# 1. 経緯と目的

- ◎ 専門職養成を目的としない学士課程教育の学修成果，を総括的評価するには？
- ◎ 卒業研究の研究（その1&2，串本2018a）：授業科目の設置状況や歴史，日本の特殊性を確認
- ◎ 卒業研究で期待されている学修成果とは？

## 2. 概念整理

- ◎ 学士研究：知的もしくは創造的な，学問分野に対する独自の貢献
- ◎ 集大成：最終学年で終了する専門的ないし学際的な，授業科目やプロジェクト
- ◎ 正課教育：単位が付与される，もしくは卒業要件に含まれる学修

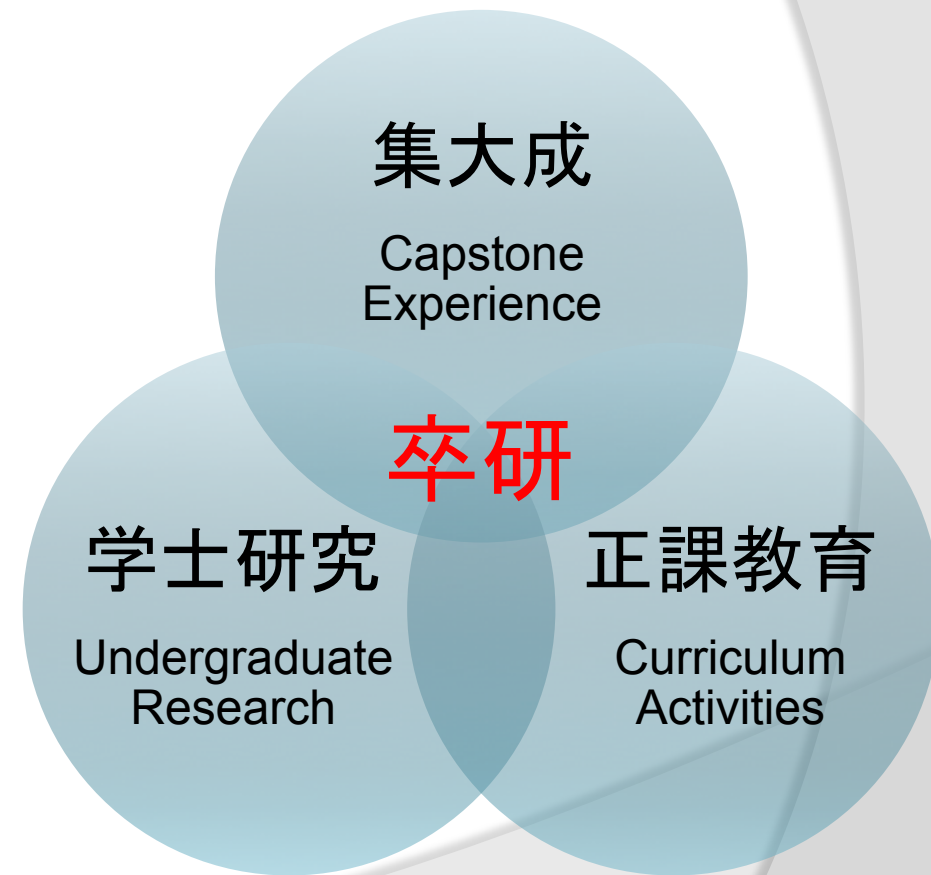


図1 卒業研究の範疇

# 3-1. 学習院大学人文科学研究所

## 人文系学科長調査

- ◎ 調査時期：2011年11月
- ◎ 有効回答数：487

## 在学生調査

- ◎ 調査時期：2012年1月
- ◎ 有効回答数：603

## 卒業生調査

- ◎ 調査時期：2013年1月
- ◎ 有効回答数：830

① 卒業論文の意義や評価時に重視する観点は大学の設置形態と推薦入試等の割合によって異なる

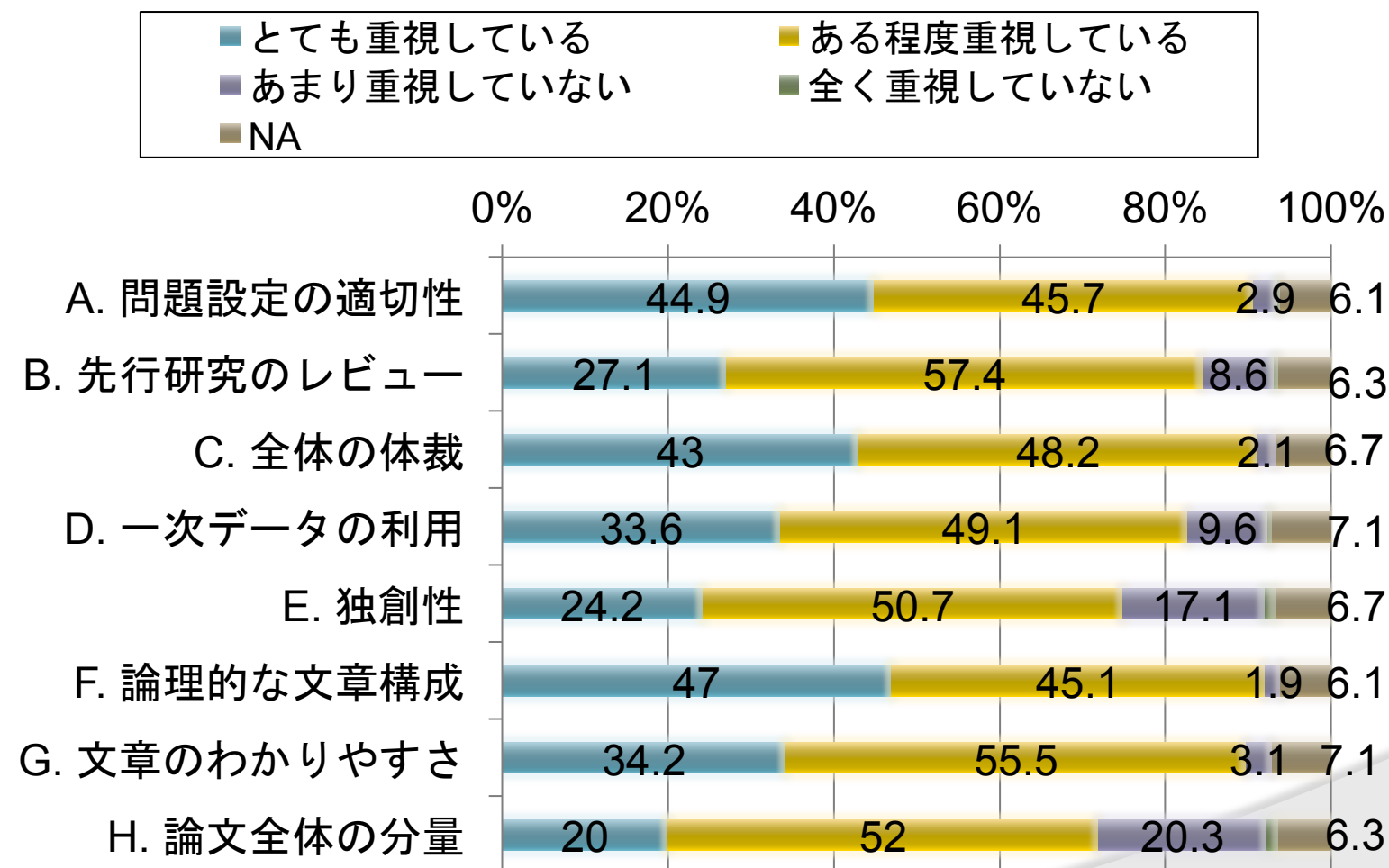
② 卒業論文への熱心度は学生の成長感に「限定的に」関連する

③ 卒業論文執筆の意義は卒業時よりも卒業後の方が強く感じる

調査概要

主な知見

## 図2 卒業論文評価の観点



出典：神田ほか（2015）を基に筆者作成

注：「全く重視していない」の値は表示していない

## 3-2. ベネッセ教育総合研究所

- ◎ 調査時期：2012年11月
- ◎ 有効回答数：4,911
- ◎ 28の学習成果について、「かなり身についた」～「全く身につけていない」の4段階評価
- ◎ 「かなり身についた」項目に関して、身についた場面を11項目から選択
- ④ 「仮説の検証や情報収集のために、実験や調査を適切に計画・実施する」において「場面」としての卒業研究選択率が最も高い
- ⑤ ほとんどの学習成果において「場面」として卒業研究が選ばれる割合は、学部系統によって大きく異なる

調査概要

主な知見

# 表1 卒業研究で獲得される学習成果

	%							
	全体	人文 科学	社会 科学	理工	農水 産	医薬 保健	教育	その 他
20 仮説の検証や情報収集のために、実験や調査を適切に計画・実施する	11.3	8.8	6.5	17.0	14.3	11.8	12.5	17.1
14 文献や資料にある情報を正しく理解する	9.4	8.1	7.4	11.1	16.7	9.3	3.7	15.5
19 問題を解決するために、数式や図・グラフを利用する	8.9	4.3	3.8	12.9	22.2	5.2	11.8	13.6
21 筋道を立てて論理的に問題を解決する	8.9	9.5	6.4	11.8	27.6	4.9	12.0	6.8
5 自分の知識や考えを図や数字を用いて表現する	8.6	4.2	7.0	12.1	25.0	3.6	5.6	10.0
18 現状を分析し、問題点や課題を発見する	8.6	7.0	6.6	11.4	20.0	8.0	8.3	10.9
4 自分の知識や考えを文章で論理的に書く	8.4	7.2	6.7	11.8	14.3	7.9	6.7	12.7
22 既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す	7.8	1.3	6.2	16.3	17.4	10.0	4.8	5.3
15 PCを使ってデータの作成・整理・分析をする	7.4	5.6	5.6	10.1	17.1	6.2	2.3	6.2
16 多様な情報から適切な情報を取捨選択する	6.8	5.8	5.5	7.2	15.6	6.8	6.1	8.7
6 PCを使って文書・発表資料を作成し表現する	6.7	4.5	4.4	10.7	18.6	7.1	3.3	4.8
8 自分で目標を設定し、計画的に行動する	5.8	3.3	4.7	6.8	21.7	2.6	11.1	7.2
17 ものごとを批判的・多面的に考える	5.4	5.0	3.3	4.1	19.4	4.1	10.0	8.7

出典：ベネッセ教育総合研究所（2012）を基に筆者作成

## 3-3. 国立教育政策研究所

- ◎ 調査時期：2014年11月
- ◎ 有効回答数：20,184
- ◎ 「あなたの最近1週間の生活時間」として尋ねた8項目のなかに「卒業論文・卒業研究」
- ◎ 学習成果8項目について、授業経験の役立ち度と自分の実力に対する認識を4件法で質問
- ⑥ 卒業研究への投下時間の有無で学習成果に関する認識が異なる
- ⑦ 投下時間の長さが学習成果認識に与える影響はほとんどない
- ⑧ いずれの知見も専門分野により例外がある

### 調査概要

### 主な知見



# 表2 授業経験の役立ち度×有無

	人文系	社会系	理・工系	農系	薬系	看護・保健系
(32A-1)専門分野に関する知識・理解	0.41	0.09	0.22	0.23	-0.16	0.04
(32A-2)文献・資料・データを収集する力	0.28	0.18	0.15	-0.15	-0.09	0.02
(32A-3)論理的に文章を書く力	0.23	0.08	0.21	0.03	-0.29	-0.04
(32A-4)人にわかりやすく話す力	0.08	0.13	0.17	0.00	-0.48	-0.09
(32A-5)外国語の力	-0.24	0.16	0.23	-0.12	0.03	0.11
(32A-6)ものごとを分析的・批判的に考える力	0.17	0.09	0.21	-0.10	-0.12	-0.15
(32A-7)問題をみつけ、解決方法を考える力	0.16	0.06	0.19	0.33	-0.10	0.05
(32A-8)幅広い知識、もののみかた	0.22	0.14	0.12	-0.13	-0.27	-0.11

	教育系	福祉系	家政・生活系	芸術系	スポーツ系	その他
(32A-1)専門分野に関する知識・理解	0.11	0.35	-0.04	-0.13	0.50	0.32
(32A-2)文献・資料・データを収集する力	0.21	0.23	-0.08	0.07	0.28	0.26
(32A-3)論理的に文章を書く力	-0.06	0.28	-0.04	0.29	-0.20	0.27
(32A-4)人にわかりやすく話す力	0.13	0.32	0.00	0.14	0.29	0.44
(32A-5)外国語の力	0.20	0.23	0.14	-0.49	0.10	0.12
(32A-6)ものごとを分析的・批判的に考える力	0.44	0.23	0.12	0.04	0.41	0.23
(32A-7)問題をみつけ、解決方法を考える力	0.37	0.11	-0.15	-0.02	0.78	0.51
(32A-8)幅広い知識、もののみかた	0.47	0.11	-0.24	-0.15	0.63	0.25

出典：串本（2018b）表13を一部改変

注：投下時間1以上の学生の平均から投下時間0の学生の平均を引いた値

# 表3 自分の実力に対する認識×有無

	人文系	社会系	理・工系	農系	薬系	看護・保健系
(32B-1)専門分野に関する知識・理解	0.13	0.14	0.38	0.37	-0.31	0.14
(32B-2)文献・資料・データを収集する力	0.12	0.02	0.22	0.06	0.01	0.15
(32B-3)論理的に文章を書く力	0.09	0.01	0.22	0.15	-0.07	0.19
(32B-4)人にわかりやすく話す力	0.03	0.04	0.12	0.11	-0.10	0.03
(32B-5)外国語の力	-0.46	0.17	0.16	-0.16	0.14	0.09
(32B-6)ものごとを分析的・批判的に考える力	0.07	0.01	0.28	-0.29	-0.09	0.15
(32B-7)問題をみつけ、解決方法を考える力	0.02	0.01	0.40	0.12	-0.11	0.08
(32B-8)幅広い知識、もののみかた	-0.03	0.12	0.13	0.17	-0.02	0.09

	教育系	福祉系	家政・生活系	芸術系	スポーツ系	その他
(32B-1)専門分野に関する知識・理解	0.12	0.27	0.14	-0.05	0.26	0.33
(32B-2)文献・資料・データを収集する力	0.19	0.19	0.11	-0.15	-0.06	0.21
(32B-3)論理的に文章を書く力	-0.10	-0.07	-0.05	0.25	-0.19	0.39
(32B-4)人にわかりやすく話す力	0.08	0.14	0.15	0.34	-0.21	0.47
(32B-5)外国語の力	-0.18	0.19	-0.13	-0.35	0.12	0.03
(32B-6)ものごとを分析的・批判的に考える力	0.07	-0.02	-0.09	0.23	-0.17	0.19
(32B-7)問題をみつけ、解決方法を考える力	0.00	0.02	-0.14	0.02	-0.06	0.38
(32B-8)幅広い知識、もののみかた	-0.17	0.26	-0.19	-0.13	0.02	0.26

出典：串本（2018b）表18を一部改変

注：投下時間1以上の学生の平均から投下時間0の学生の平均を引いた値

# 表4 授業経験の役立ち度×長さ

	人文系	社会系	理・工系	農系	薬系	看護・保健系
(32A-1)専門分野に関する知識・理解	.135	.165	.133	.178	.098	.139
(32A-2)文献・資料・データを収集する力	.197	.131	.008	-.039	.016	.053
(32A-3)論理的に文章を書く力	.118	.077	.011	-.009	.042	-.010
(32A-4)人にわかりやすく話す力	-.018	.045	-.055	-.057	-.011	-.016
(32A-5)外国語の力	-.083	-.039	.002	-.007	-.059	.041
(32A-6)ものごとを分析的・批判的に考える力	.108	.136	.007	-.033	-.053	.007
(32A-7)問題をみつけ、解決方法を考える力	.098	.089	-.040	.000	-.329	-.046
(32A-8)幅広い知識、もののみかた	.149	.157	.008	.022	.002	-.050

	教育系	福祉系	家政・生活系	芸術系	スポーツ系	その他
(32A-1)専門分野に関する知識・理解	.024	.151	.275	-.100	.119	.204
(32A-2)文献・資料・データを収集する力	.052	.210	.080	.022	.124	.150
(32A-3)論理的に文章を書く力	-.016	.218	.016	.052	.277	.118
(32A-4)人にわかりやすく話す力	.006	.238	.067	-.043	.231	-.045
(32A-5)外国語の力	.068	.096	.031	-.057	-.120	.070
(32A-6)ものごとを分析的・批判的に考える力	.069	.283	.043	.124	.065	.242
(32A-7)問題をみつけ、解決方法を考える力	-.029	.159	.063	.075	.059	.008
(32A-8)幅広い知識、もののみかた	.008	.191	.205	-.003	.028	.106

出典：串本（2018b）表16を一部改変

注：値は学修成果認識と投下時間の長さの相関係数

# 表5 自分の実力に対する認識×長さ

	人文系	社会系	理・工系	農系	薬系	看護・保健系
(32B-1)専門分野に関する知識・理解	.082	.076	.053	.122	.236	.171
(32B-2)文献・資料・データを収集する力	.156	.110	-.080	.059	.158	.030
(32B-3)論理的に文章を書く力	.097	.101	-.034	.028	.272	-.118
(32B-4)人にわかりやすく話す力	-.020	-.012	-.119	-.077	.313	-.130
(32B-5)外国語の力	-.023	.009	-.037	.068	.234	.056
(32B-6)ものごとを分析的・批判的に考える力	.045	.070	-.049	.013	.255	-.095
(32B-7)問題をみつけ、解決方法を考える力	.042	.051	-.061	-.018	.215	-.042
(32B-8)幅広い知識、もののみかた	.094	.094	-.069	-.003	.182	-.064

	教育系	福祉系	家政・生活系	芸術系	スポーツ系	その他
(32B-1)専門分野に関する知識・理解	-.023	.031	.240	-.088	.131	.144
(32B-2)文献・資料・データを収集する力	.097	.055	.164	.035	.199	.166
(32B-3)論理的に文章を書く力	.066	.214	.129	-.027	.151	.056
(32B-4)人にわかりやすく話す力	.060	.234	.111	-.099	-.088	-.050
(32B-5)外国語の力	.075	.142	.060	-.075	-.134	.024
(32B-6)ものごとを分析的・批判的に考える力	.060	.202	.125	.062	-.124	.213
(32B-7)問題をみつけ、解決方法を考える力	.022	.221	.101	.020	.017	.075
(32B-8)幅広い知識、もののみかた	.002	.193	.165	-.035	-.154	.042

出典：串本（2018b）表21を一部改変

注：値は学修成果認識と投下時間の長さの相関係数

# 表6 卒業研究への投下時間(4年生)

	人文系	社会系	理・工系	農系	薬系	医・歯系	看護保健系	教育系	福祉系	家政生活系	芸術系	スポーツ系	その他	合計
0時間	144	348	59	8	99	131	148	17	43	28	19	14	48	1106
	19.9%	36.7%	4.4%	4.1%	66.9%	93.6%	42.7%	5.2%	27.6%	15.1%	10.2%	13.5%	24.6%	22.2%
1-5時間	181	273	105	16	7	3	65	91	52	48	38	30	64	973
	25.0%	28.8%	7.8%	8.3%	4.7%	2.1%	18.7%	27.7%	33.3%	25.9%	20.3%	28.8%	32.8%	19.5%
6-10時間	134	135	153	33	2	1	44	70	25	46	38	23	21	725
	18.5%	14.2%	11.4%	17.1%	1.4%	0.7%	12.7%	21.3%	16.0%	24.9%	20.3%	22.1%	10.8%	14.5%
11-15時間	89	88	107	16	1	1	36	48	9	21	26	12	16	470
	12.3%	9.3%	8.0%	8.3%	0.7%	0.7%	10.4%	14.6%	5.8%	11.4%	13.9%	11.5%	8.2%	9.4%
16-20時間	52	60	127	20	2	1	11	36	10	17	13	10	8	367
	7.2%	6.3%	9.5%	10.4%	1.4%	0.7%	3.2%	11.0%	6.4%	9.2%	7.0%	9.6%	4.1%	7.4%
21-25時間	53	15	112	16	4	0	12	27	9	6	10	6	8	278
	7.3%	1.6%	8.4%	8.3%	2.7%	0.0%	3.5%	8.2%	5.8%	3.2%	5.3%	5.8%	4.1%	5.6%
26-30時間	23	14	128	7	2	1	10	12	4	9	15	1	6	232
	3.2%	1.5%	9.6%	3.6%	1.4%	0.7%	2.9%	3.7%	2.6%	4.9%	8.0%	1.0%	3.1%	4.6%
31時間以上	48	15	547	77	31	2	21	27	4	10	28	8	24	842
	6.6%	1.6%	40.9%	39.9%	20.9%	1.4%	6.1%	8.2%	2.6%	5.4%	15.0%	7.7%	12.3%	16.9%
合計	724	948	1338	193	148	140	347	328	156	185	187	104	195	4993
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

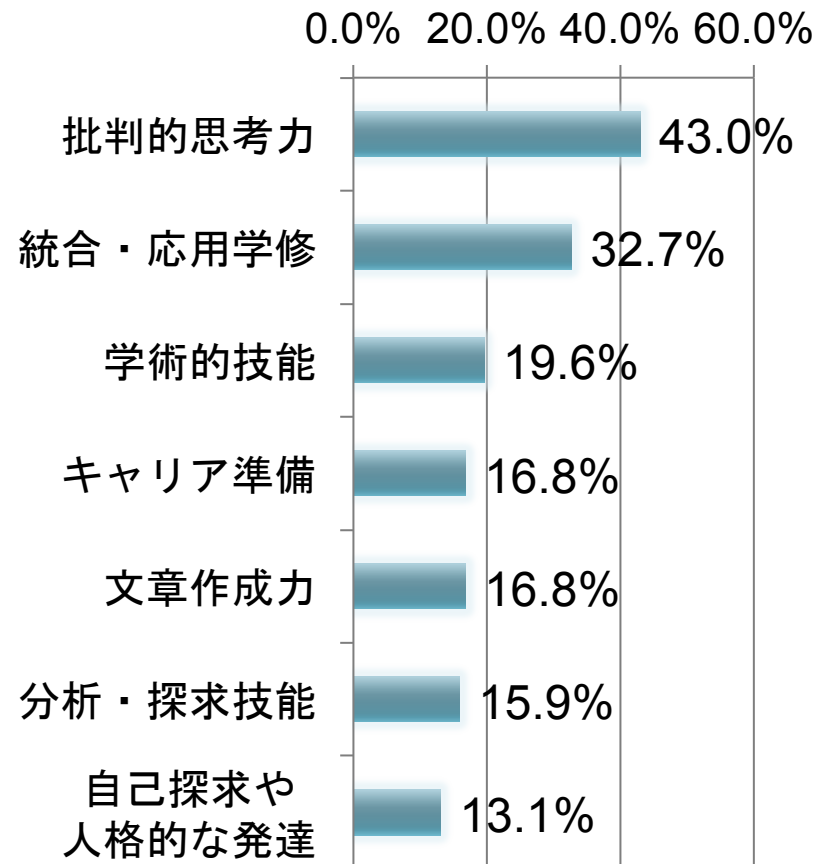
出典：串本（2018b）表2を転載

## 3-4. 海外の先行研究

⑨ 認知面：知的成長に関する学生の認識，認知的成果に関する教員の認識，認知的成果の客観的把握に関する研究がある

⑩ 情意面：専門分野や学習一般に対する関心，あるいは自尊心や自己効力感を，学士研究の経験が高める

Undergraduate Research  
Murray (2018)



Capstone Experience  
Young (2017)

# 4. 結論

## 先行研究の限界

- ◎ 学修成果：情意的側面（学ぶ意義への気づきや自己効力感）
- ◎ 成績評価の観点：成果物（論文）だけでなく、研究の過程や成果を伝える力
- ◎ 学科の属性：入学難度や大学院進学率

## 検証すべき仮説

- 1) 情意面の学修成果が意識されているほど、成績評価の観点が幅広い
- 2) 入学難度や大学院進学率が低い学科ほど、情意面の学修成果が意識されている

# 参考文献

- ◎ ベネッセ教育総合研究所（2012）『第2回 大学生の学習・生活実態調査報告書』
- ◎ 神田龍身ほか（2015）『人文系学士課程教育における卒業研究がもたらす学習成果の検証』学習院大学人文科学研究所.
- ◎ 串本剛（2018a）「第21章 高度教養教育の評価：高年次共通教育と卒業研究に見る可能性」羽田貴史編『グローバル社会における高度教養教育を求めて』東北大学出版会, pp. 357-370
- ◎ 串本剛（2018b）「卒業研究への投下時間：専門分野別の規定要因と効果」深堀聰子編『学生の成長を支える教育学習環境に関する調査研究』国立教育政策研究所.
- ◎ Murray, Joseph L. (2018) *Undergraduate research for student engagement and learning*, Routledge.
- ◎ 中井俊樹（2011）「学士課程の学生に研究体験は必要か：国際的動向と論点整理」『名古屋高等教育研究』11, pp. 171-190.
- ◎ Young, Dallin G. (2017) “Reporting institutional support of a critical transition: Senior capstone experiences.” 2017 ACPA Annual Convention, Columbus: OH.